

各山域毎の現状と問題点 大雪山

聞き取り対象：

東川町商工観光課
上士幌町役場商工観光課観光係
新得町役場観光係（新得山岳会）
大雪山旭岳ビジターセンター
大雪山ネイチャーガイド
旭川山岳会会員
大雪山国立公園パークボランティア
ひがし大雪自然ガイドセンター
道東方面で自然保護活動をしている方

【Q】登山口および山中のトイレ設置・管理状況

【A】登山口 旭岳ロープウエー下の青少年野営場（管理は東川町、水洗）
旭岳ロープウエー上の駅舎（ロープウエー会社、水洗・循環）
黒岳ロープウエー上の駅舎（ロープウエー会社、水洗）
ニペソツ山杉沢出合（上士幌町観光協会が清掃・汲み取り簡易トイレ1基、
上士幌観光協会管理、清掃はガイドセンター、6～11月）
東大雪荘（営林署）、東大雪荘近くの噴水のある公園・野営場（新得町）
又ブントムラウシ（新得町、500m手前の温泉の避難小屋内、清掃）
山 中 旭岳避難小屋（東川町大雪山国立公園保護協会、携帯トイレブース）
ヒサゴ沼野営指定地（北海道、ヘリでトイレのくみ取り・ゴミ多くマナー悪い）
黒岳石室、白雲岳避難小屋、忠別岳避難小屋

【Q】登山口および山中での紙・し尿の散乱状況

【A】ひどい場所

登山道 旭岳～黒岳の銀座コースで、ニセ金庫岩裏、間宮岳の手前200～300m（旭岳側）、
登山道から5～6mの岩場、間宮岳頂上からお鉢側へ少し降りた岩の陰、
中岳の手前のお鉢側の岩場、雲の平のハイマツの陰
宿泊地 旭岳石室、（古い時）特に冬季避難小屋を利用する人により。
美瑛富士と十勝岳の避難小屋、トムラウシ南沼と大沼の野営指定地。
トイレ・携帯トイレ用テントがあるが他で用を足す人もいる。
音更山ブヨ沼に散乱が目立つ。
登山口 沼ノ原のクチャンベツ登山口、トムラウシの短縮登山口。
凌雲閣、望岳台の周辺（冬期）。
トイレのない石狩御殿登山口も少々気になる程度だが、散乱している。
ニペソツはトイレ設置とともに散乱は皆無となった。
美観、高山植物への影響、水源の汚染、病原菌の散布が問題

ひどくない場所

登山口 黒岳 リフト終点はトイレ無いが、我慢してロープウエーの駅舎まで行く
又ブントムラウシ、大は避難小屋のトイレが利用されていると思われる。

【Q】その他登山利用による影響で問題視していること

【A】・オーバーユース。来た人を全部（山の中へ）いれるという時代ではない。木道が敷かれていない部分で、湿原のオーバーユースの影響顕著、黒岳～旭岳間の登山道の土壌の流亡・複線化。
・五色ヶ原の木道整備に対し、問題を言う人もいるが、木道によってホソバウルップソウ等高山植物の回復の兆しがみえる。
・トムラウシ山の登山道が荒れているといわれるが、それほどでもないと考えている。
・トムラウシ周辺での湿地の踏み跡の拡大。木道設置しかない。
・登山道が使われないことによって荒廃している。
・業者。1人のガイドで何十人も引率するのはよくない。
・マナー。登山道のロープからはみ出る人がいて、注意するとトラブルになることがある。

- ・遭難。ニペソツ幌加コースの笹が深く、コースを間違える。無線の SOS の受信体制整備。
- ・ニペソツ山の人気の高まりとともに、登山道の浸食・拡幅が目立ってきた。
- ・高山植物の盗掘、植生が回復しない。高山蝶の密猟。ペット、飼い主のマナー。
- ・管理が不十分。

【Q】現在実施しているトイレ問題の対策の内容と課題

【A】ガイドとしてお客さんには昔から紙の持ち帰りをするように言っている。

携帯トイレ

- 配 布 旭岳ビジターセンター（1000 個）、黒岳石室、ヒグマセンター、東大雪荘、新得登山学校で配布。
道（十勝支庁）からの援助を受け無償で配布。来年も無料配布を実施する予定。
クリーン大雪での携帯トイレの啓蒙・配布。
旭岳の避難小屋に携帯トイレブースを建設。
携帯トイレの持参、トイレ用テントと便座の担ぎ上げ。
冬山登山者にも配布している。
- 回 収 ニペソツ登山口約 20 個、旭岳ビジターセンター45 個。ビジターでの回収率悪い。
普通のゴミも混入されている。
- 課 題 お金をかけている割に効果が期待できない。現実的でない。
山を汚さなくて済むということは、気持ちのいいことだ。
周知されておらず、利用度が低いこと。普及と持ち帰りの啓蒙活動が必要。
実際の利用の程度は不明。
使い勝手と臭い、持ち運びの心配の克服。初めて使う人には抵抗が大きい。
回収ボックスの設置、ゴミが捨てられる心配、分別の心配
携帯トイレは使用場所が無い。トイレブースの増設と管理が必要。
携帯トイレの無償配布がいつまで続けられるか心配である。
周知徹底されるまで数年は継続を希望したい。
また回収ボックスの設置増加と位置の周知がまだまだである。（ニペソツ）
- 啓蒙 町民登山会で参加者に。
清掃 南沼野営場で清掃登山。

【Q】今後目指したい対策の方向性

【A】登山口 工事現場用のトイレの設置。北海道、環境省、地元で 1/3 ずつ負担。

宿泊者が多い短縮登山口にはトイレが必要。

- 山 中 ・携帯トイレはまず使われない。人を入れるのであればトイレを作り、トイレが設置できないのであれば人を（自由に）入れなくすべき。
・一番汚れる場所、裏旭、トムラウシの南沼、大沼の野営指定地にトイレ設置。
・トイレの使用料の徴収。
・バイオトイレは温度・電気・維持管理のコストが負担なので汲み取り式。
・環境省と自衛隊で協力し、自衛隊のヘリによるトイレ施設が便層の運搬。
・シーズン中だけでも簡易トイレを 2-3 基設置してシーズン後に回収。
・日帰りの山の登山口、山中にはトイレは必要ない。

啓蒙 + 携帯トイレ

- ・最後のトイレ箇所（例：ロープウエーの駅舎）のアピール。

がまんできなかつたら携帯トイレ

啓 蒙 登山者全員が自然環境の保全を理解し、登山者が管理する姿が理想。

携帯トイレ

- ・携帯トイレの普及・浸透で影響は和らぐ。 全てを解決するのは無理。
- ・携帯トイレは補助的に捉えたい。トイレのない場所では携帯トイレを利用。
- ・10 年後、20 年後になるかわからないが、時間をかけて定着するのではと思う。

【Q】不足していると感じている情報

【A】・もっと使いやすい携帯トイレ。現在のは使いづらい、運びづらい、使用後の臭いが心配。

- ・旭平では携帯トイレが主流だというピーアール。

- ・「短縮登山口にはトイレがない」から東大雪荘等で「事前に用を足しておいたほうがよい」といった案内。
- ・役場へのトイレに関する情報提供。トイレの有料、無料あるいは協力金等、問題の解決策。
- ・トイレが欲しいという、多くの一般登山者の声。

【Q】考える会への要望

- 【A】
- ・人によって考えはちがうので、解決策を一本化させるべきではない。
 - ・いろいろな考え、立場の人による話し合い、オフシーズンの定期的な話し合いが必要。
 - ・山に登る人、山中で宿泊する人、縦走する人を重点的に啓蒙して欲しい。
 - ・参考になる情報があれば役場にも流して欲しい。
 - ・「トイレが欲しいという、多くの一般登山者の声」を集めて北海道へ働きかけてほしい。
 - ・必要な場所へのトイレ設置の働きかけをもっとやってほしい。
 - ・この問題を真剣に論ずるレベルに引き上げた功績大。より大勢の方が関心を持つよう、今後も啓発活動の継続を。トムラウシのカムイ天井ショートカット登山口のトイレ設置を、考える会からも新得町に働きかけて欲しい。

【Q】姿見の石室の携帯トイレブースについて

- 【A】
- ・トイレだと期待を抱かせ、用が足せなくてショックを与える。近くにトイレもある。使用されていないのでは？
 - ・建設に当たり、ブースに用を足す人ができるのではという心配があった。
 - ・便座を置いてきた。ブースは利用されているようだ。
 - ・ブースに使用済みの携帯トイレを捨てられたという話は聞いていない。
 - ・人の集まる場所には最低限トイレ施設は必要だ。
 - ・旭岳石室の位置付けが不評（宿泊原則禁止、トイレなしなど）。

【Q】ニペソツ登山口のトイレの設置と管理について

- 【A】夏場にハエやシデムシなどの虫がわき、臭いもきつくなり不衛生。利用者の心証も悪い。パイオトイレの導入を検討して欲しい。

【Q】小屋のし尿搬出について

- 【A】
- ・ヘリコプターでの回収が望ましい。
 - ・黒岳小屋は毎年管理の人達の手で汲み取っているが、ヘリコプターでの搬出がのぞましい。

【Q】南沼野営指定地の管理について

- 【A】
- ・まずどのように管理できるかということを決めたい。
 - ・非常に悪い。キャンパーが多すぎ。上部雪渓水場の方で用を足す人あり。
 - ・7月の第2週末と9月の第1週末で、南沼野営地の保護ロープ張りを実施。
 - ・景観を損ねない範囲で、トイレ設置を望みたい。し尿は貯めてヘリで搬送。
 - ・トイレが必要と考えているが、設置は自治体、国、道の協力で。

【Q】その他の意見として

- 【A】
- ・登山者の意識レベルの低さも問題の一端としてはある。
 - ・入山料の徴収方法は、税方式が望ましいのではないか（水源保護目的など）。
 - ・山岳会員は入れ込み時期を外して登山する傾向にある。

各山域毎の現状と問題点 大雪山：上川地区

聞き取り先：環境省大雪山国立公園自然保護官
上川町商工観光課
層雲峡観光協会・山岳ガイド

【Q】登山口および山中のトイレ設置・管理状況

- ・登山口でトイレがないところはニセイカ、沼ノ原、ユニ石狩で、パキュウムが出入りできるところや、管理が行えるところは設置を検討したい。どの様な管理ができるかによりトイレの様式は変わるだろう。（環境省）
- ・トイレのない野営指定地は即トイレ設置すべきと考えている。景観上好ましくないとの諸意見もあるようだが、自然生態系とか現状の自然破壊の問題を優先すべきでは。（ガイド）
- ・管理的な対策は、使用料、協力金など登山口でも対応できると考える。

【Q】登山口および山中での紙・し尿の散乱状況

- ・特に散乱のひどいところは美瑛富士、南沼、裏旭と思っている。南沼については登山者の利用期が集中するため、山の、或いは自然の浄化作用が追いつかないでいる。

【Q】その他登山利用による影響で問題視していること

- ・オーバーユースとミスユースの区切り。
- ・黒岳～旭岳間の登山道の荒廃
- ・ステッキ利用は、歩道を崩し、歩行による土の崩壊、雪解時の増水で土が流され、登山道荒廃の主因ではないかと思っている。

【Q】現在実施しているトイレ問題の対策の内容と課題

- ・携帯トイレはトイレ問題の第一ステップにある最初の対策。あまり利用されていないようだ。ビジターでの回収率悪く、中に普通のゴミも混入されている。
- ・トイレブースは野ざらし状態にはおけないので人のが届く範囲におく必要がある。
- ・黒岳のトイレは毎日管理人が清掃して管理し、利用済みの紙を分別して山麓に下げている。

【Q】今後目指したい対策の方向性

- ・どこにトイレを設置するかでなく、どこにトイレはどのように管理できるかが最初議論されるべき。管理できないトイレは作れない！！作らない！！
- ・新規トイレ設置の場合、横にスライドできる便層でそのままヘリで運搬できるのが維持費、コストと、経費でできると思う。
- ・トイレの問題は一自治体が解決できるものではなく、幅広い各関係先との統一した考え方や利用者の理解が必要。
- ・入園料、協力金、使用料など、TPOにあった現実的な経済的協力を利用者が考える時期。

【Q】不足していると感じている情報

- ・直接登山者からの情報などを知りたい。
- ・トイレの有料化に関して、協力金などの可能性。
- ・どのような管理ができる施設（トイレ）を設置できるか。

【Q】その他の意見

- ・登山者の意識レベルの低さも問題の一端としてはある。
- ・美瑛富士避難小屋、南沼野営指定地、沼ノ原大沼、オプタテ双子池、ニペ他で、大雨時、増水時は、全部自分達の出した汚物、ゴミの最終処理が、その場で使用する飲料水の中に混じることが何故分からないのだろうか。
- ・ガイドが沢山の登山者を引率して黒岳の石室を通過します。その際必ず石室のトイレを使用します。この先トイレがないからです。それはいいとして心ないガイドの言葉が石室管理人を苦しめます。毎日清掃してできるだけ清潔に保っている人達の前で「大雪で一番汚いトイレです」というのです。（道外からのガイドです）